

第1期 出題趣旨

小論文1

現在の日本では、乗客個人の重量によって運賃を差異化するような方策は想定されていない。そのような方策を採れば利用者を不当に差別することになるのではないかという意見が出てくることも予想される。しかし、素朴な発想として、問題文に登場するような DCB 方式を採ることも考えられないわけではない。

そこで問1では、もしそれを正当化するとすれば、どのようなことを挙げればよいかを検討してもらおう。たとえば、重量が大であれば車両に対する負荷も大になることを指摘し、メンテナンス費用の合理的な負担について検討することが考えられる。

問2では、重量による運賃の差異化が社会に与える影響に目を向けてほしい。機械文明の発達は一般に画一化を生むと考えられるが、AI が進化すると、むしろ今まで等閑視されてきた個別的な差異を掬い上げることが可能になると推測される。しかし、それが社会にとって好ましいかどうかは、それぞれ個別具体的に検討する必要がある。問1における正当化の論理に納得した人は導入に賛成するかもしれないが、私生活への過剰な介入の危険を察知する人が出てくることも当然予想される。

小論文2

視覚障害者の踏切での死亡事故が複数起きていることから、踏切の安全性の観点からの問題点を指摘し、それを改善するための提言をしている課題文を素材に、視覚障害者の安全という観点からの踏切における問題点、踏切を安全なものにするための課題文の提言の内容とそれに対する解答者の見解を記載してもらおう問題である。

課題文の内容とその提言についての読解力、読み取った内容の表現力、課題文に対する解答者の意見の内容やその表現力を評価の対象とする出題である。

第2期 出題趣旨

小論文1

本問の狙いは、観察対象を分類するという作業が学問の基礎として重要であることを理解してもらうことにある。

まず、問1の出題趣旨を示す。観察対象を分類するには、なんらかの観点を設定する必要がある。まさにその観点の設定という行為こそが、その学問に取り組むうえで必要な視座の発見に向けた知的な作業になっている。同じ類型内の要素に共通点を、異なる類型の要素に相異点を見出しているのである。それはいかなる学問にも共通すると考えられる。

次に、問2の出題趣旨を示す。問題文の伝統的分類論と $\alpha \beta \gamma$ 3分類論には、分類の意義

をどこに認めるかという点で大きな違いがある。伝統的分類論においては、最初に1つのもを2つの類型に分け、その片方をさらに2つに分けたうえで、それぞれを3つに細分類する。細分類の結果である3つの類型は同じ列に配置される。このように分類作業が進展するので、その成果は分岐図となって思索の流れを教えてくれる。それに対して、 α β γ 3分類論の方は、まず分類の目的を一点に絞る。そして数多くの要素をその目的との関係で整理すると、 α 、 β 、 γ という3つの類型が浮かび上がる。それ以上に分岐しないので、分岐図を見る喜びはないが、設定された分類目的との関係では無駄がない。きわめて実践的な手法だと言えよう。

小論文2

近時、障害者と健常者とのコミュニケーションにつき議論は盛んに行われている。そのような社会情勢を踏まえ、パラスポーツ、特にブラインドサッカーに関して、その可能性を論じた文章を題材にして、文章の理解力や分析力を問う問題を出題した。さらに、それに関する自己の意見を適切かつ説得的に述べることができるか、さらに関係する事象に広げた話題を提供できるかという力も、併せて問う問題である。法律は社会に生起する問題を解決していくためのツールであるから、以上の観点は大事な観点であり、そのような力も磨いてほしい。

第3期 出題趣旨

小論文1

社会の構成員がみな立派な働きをする人間であれば、そこに素晴らしい社会が存在していると思うのは自然である。実際そうかもしれない。はたして、あなたはどうか考えるか。

問1は、働きアリの社会に存在する働かないアリの役割を考えてもらう問題である。働いているアリに故障が出た場合に備えて待機させているとか、外部からの攻撃に対抗する特殊集団であるといった回答が考えられる。人間社会に当てはまるかどうかは、ここでは問わない。

問2は、パソコン社会の現在と将来に思いを馳せてもらうことを狙いとしている。A教授は「みんながあたりまえのようにパソコンを使う」ところに不安を感じているようである。その理由としては、各人の好みや能力差が見えなくなる、何か便利なツールが開発されると誰もがそれに対応するよう強いられるといったことが思い浮かぶ。現代社会ではそれはやむをえないことだと考える人もいるだろう。他方で、なにか危険の兆候を感じ取る人がいるかもしれない。自由に思索を展開してほしい。

小論文2

豪雨災害が増えていることから、豪雨による被害を少なくするための提言をおこなう課題文を素材に、豪雨災害に関連して気象庁が始めた制度や、豪雨の際の高齢者の避難についての課題と現状、それらについての課題文による提言の内容と解答者の見解を記載してもらう問題である。

課題文の内容の読解力と読み取った内容の表現力、課題文に対する自分の意見の内容や表現力を評価の対象とする出題である。

第4期 出題趣旨

小論文1

近年、漫画、雑誌、小説など、多くの書籍が電子化され、人々に親しまれている。電子化された書籍は非常に便利である。例えば、重量がなく嵩張らない、大量の書籍を持ち運ぶことができる、保管に場所をとらない、いつでもどこでも購入できる、劣化しない、等々である。しかしながら、電子書籍を好まない者もいる。本問のY君である。電子書籍を好まない者を時代遅れと評することは、いささか早計であろう。電子書籍を好まない者の意見に耳を傾ける必要がある。

受験生には、電子書籍を利用する者の事情、環境、年齢、使用目的等を十分に考慮し、電子書籍の長所と短所を具体的に示して、説得的な見解を記すことを期待する。

小論文2

国際的に見て、日本の若者の自己肯定感が低いというのは、よく言われる言説である。ところが、ここで取り上げた課題文は、これを否定するものである。この課題文の根拠は何なのか、そしてそれは説得的なのか、自分はそれに対して賛同するのか反対するのか、色々な展開が考えられる。まずは、課題文の論理を的確に捉えているか、どの点が中心的な論拠なのか、その点に対する反対論は成り立つのかなどの点を論じてほしい。さらに、自己肯定力という点につき、自己の体験などに照らして、適切な話題を選び、それを分かりやすく論述することができるかと力も問うている。これらは、法律を学習していく上でいずれも重要な力である。

第5期 出題趣旨

小論文1

多くの人が自然を保護すべきという見解に賛同する。しかしながら、保護すべき自然とは何

か、保護の程度はどの程度かと尋ねられると、その答えは同一でない。自然を元に戻すとは、いつの時代のどの状態に戻すことなのであろうか。保護の名目で人間が介入することは、今ある自然や生態系を変化させ、人間の知らないうちに、一部の生物を滅ぼすことにつながらないのであろうか。

受験者には、自然保護について様々な見解が存在することに気づき、実際に行われている自然保護を再考し、自らの見解を記すことを期待する。

小論文2

「糖尿病」という病名について、新しい病名が検討されている背景を解説し、適切な病名の検討が、病気への理解を深め、共生社会の実現につながり得ることを指摘する課題文を素材に、糖尿病という病名の変更が検討されている理由と、病名変更についてのメリットとデメリット、病名変更についての解答者の見解を記載してもらう問題である。

課題文の内容の読解力と読み取った内容の表現力、課題文に対する自分の意見の内容や表現力を評価の対象とする出題である。